

平成25年度白老町議会白老町財政健全化に関する調査特別委員会小委員会会議録

平成25年 7月 8日（月曜日）

開 会 午前10時14分

閉 会 午前10時41分

○会議に付した事件

1. 小委員会正副委員長の互選について
2. 特別委員会の調査方法について
3. 特別委員会及び小委員会の次回開催日について

○出席委員（6名）

小委員長 大 淵 紀 夫 君	副小委員長 吉 田 和 子 君
委 員 西 田 ・ 子 君	委 員 小 西 秀 延 君
委 員 山 田 和 子 君	委 員 及 川 保 君

○欠席委員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	岡 村 幸 男 君
主 査	本 間 弘 樹 君

◎開会の宣告

○小委員長（大淵紀夫君） ただいまから白老町財政健全化に関する調査特別委員会小委員会を開会いたします。

（午前10時14分）

○小委員長（大淵紀夫君） 小委員長を仰せつかりました大淵でございます。今白老町は全国的にも非常に大きく取りざたされておる財政問題がございます。これを町とともに、町民とともに、何としてもこの難局を乗り切ると。そのために議会の果たす役割は、私は非常に大きいものだろうというふうに思っております。町民の声をしっかり聞き、町の方針をしっかり理解し、その中でどういう方法が白老町の将来にとって一番いいのかということをしつかり議会として議論をしていきたいと。それを進めるのは小西委員長中心の特別委員会ですけれども、それをサポートし、下で支える黒子に徹して支えるのが小委員会の仕事だというふうに私は思っておりますので、そういう立場で皆さんとともにきちんと議論をし、ときには町との対立、町民への説得、いろんなことが出るかもしれません。そういう中で、今回議会が本当にきちんとした対応で迫れるというようなものをつくり上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いたしたいと思っております。

それでは、早速ですけれども、別のレジュメが配付されていると思っておりますので、まずそれを見ていただきたいと思っております。この案につきましては、議会事務局で一定の整理をしていただきました。最初に岡村事務局長から若干の流れ、きょう小委員会できたばかりですから、流れを聞いてその後どういう形で特別委員会及び小委員会を運営していくかというあたりについて意思統一したいと思っております。よろしくお願いたします。

それでは、岡村局長お願いします。

○事務局長（岡村幸男君） ご説明させていただきます。小委員会のレジュメ、2番に特別委員会の調査方法についてということで記載してございます。町の財政健全化に向けた取り組みにつきましては、現段階では有識者の答申が出たということと、きょう行革推進委員会の中間の答申があるというふうに聞いてございます。両方の答申は出るということでございますけれども、町がその答申を受けてどのように取り組んでいくかということについてはまだ先の話で、個別の課題については、ほぼ7月末にならなければ町としては最終的な方向性についてはまだまとまっていないという段階であります。

特別委員会の進め方につきましてまずきょう審議をしていただきたいと思っておりますのは、外部有識者の検討委員会の答申ということがございます。これは、議会としてその内容をきちんと聞く必要があるのではないかとということです。それをきょうご検討いただきたいという部分でございます。

それと、財政収支のシミュレーションなのですけれども、実は、新財政改革プログラムは、最初は19年につくってございます。それから21年に見直しをかけて改訂をしております。

この2つの収支見通しの違いがあるかと思えます。これはやはり、きちんと把握しておく必要があるのではないかということです。それから、これらの収支見通しがどのように乖離しているのかということがあるかと思えます。交付税がどのように上下してきているのかとか、当初見積った扶助費がどのようになっているのかとか、やはりそのシミュレーションに基づいて、実際の決算との乖離がどこで生じているのかということが、財政の数値を見ていく上で必要な部分ではないかと考えておきまして、これらの決算数値の比較をきちんと説明してもらってはどうかと思えます。

それから、現段階での財政収支見通しです。これは6月の一般質問等でも財政担当課長がお答えしているのですが、財政担当課長の答弁の中に、何年後には累積の赤字がふえて、このままでいけば財政再生団体になるかもしれないという答弁もされているのですが、当然、それは財政担当課長の口頭だけの問題ではなくて、一番問題なのはそのシミュレーション、今の段階でどのような状況になっていくのかということが、議員の皆さんにこれをきちんと説明する必要があると考えてございまして、これらについてはきちんと説明をしてもらう必要があるのではないかというふうに考えております。

それから、財政改革計画、今取り組みを進めておりますけれども、この取り組みの柱となる行政課題ということがあります。既に有識者の答申では、例えば町立病院の廃止、もしくは財源的な見通しがつくのであれば民間移譲というようなお話もされておりますけれども、何点かそのような指摘の項目があり、全部で9項目くらいあったかと思えますが、それが全て行政課題として今町側が財政改革計画の中で取り組んでいく課題となっているのか、ほかにも課題として押さえて取り組まなければならない課題があるのかというあたり、現段階でまだできておりませんけれども、そういう説明をいただくということがあります。

最後に、財政改革計画の策定スケジュールということを上げさせていただきましたが、特別委員会を進めていくに当たっては、やはり町側がどの時点でどういう内容のものを出してくるかということによって、特別委員会の進め方が影響する部分だろうというふうに考えてございまして、それらの説明を受けた後、進め方については検討していく必要があるだろうというふうに考えております。

大きな項目で4つ、シミュレーションについては中身ありますけれども、これらをまず小委員会の中で検討していきたいというふうにたたき台をつくらせていただきました。

以上です。

○小委員長（大淵紀夫君） ただいま局長から説明がございましたけれども、特別委員会の調査方法の初期の段階ですけれども、この4点、今の説明に対して質問のある方はどうぞ。

山田委員。

○委員（山田和子君） 山田です。調査方法の大きな項目4点なのでございますけれども、これの時間配分というか、スケジュール的にはどのぐらい見えていますでしょうか。例えば、1番の検討委員会の答申についての説明は1日1時間半かかるとか、そういう予定はどのように押さえていらっしゃるでしょうか。

○小委員長（大淵紀夫君） 岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） 時間配分までは考えていませんけれども、実は7月22日に特別委員会を開く予定で既に日程調整終わっていますけれども、この7月22日、午前10時からの委員会では、財政収支のシミュレーションと財政改革計画の取り組みの柱となる行政課題、それから、財政改革計画の策定スケジュールについて担当課のほうから話を聞くという、そういう状況で担当課とも内々の話はしてございます。

それで、実は、最初の有識者検討委員会の答申についての説明、これ宮脇先生初め有識者の先生方に直接ご説明いただく、いわゆる参考人です。特別委員会に参考人として出席していただいておりますという機会がどうなるかということのご審議をしていただきたいと思いますのですが、ただ、この7月22日の先生の日程がまだつかないということで、担当課のほうでは調整中ということで、若干ずれ込んでしまうかなと思っております。ですから、そこは説明を聞く、参考人として来ていただくということが必要だということであれば、担当課を通して日程を調整して、特別委員会の中で全員に聞いていただくような方法を取ったほうがよろしいのではないかなと考えております。

以上です。

○小委員長（大淵紀夫君） 山田委員。

○委員（山田和子君） 山田です。町としての大体大まかな方向性をまとめたいというふうに思っているのが7月末というふうに押さえているのですけれども、そうしましたら、やっぱりこのスケジュールでは遅くないですか。もう少し早く。

○小委員長（大淵紀夫君） 1番の部分につきましては、相手のあることとございます。この問題で言えばまず聞くのか聞かないのかということとここで一定限度お話をしなくてはなりません。

もう一つは、ここで白老町の行政改革推進委員会の答申、中間答申も出ます。ここの取り扱いをどうするかというのもございます。そういうことは、1番では議論が必要だと思います。私も山田委員がおっしゃっているとおり、それが22日以降に行われて、果たして本当の議論ができるのかということ言えばちょっと疑問です。聞く必要があるのなら聞くのは構いませんけれども、それは全く聞くのは聞くということにしながらも、2、3、4の部分について、先に22日なりにもう聞いてしまうと。町の考え方を聞くということは同時並行でどんどんどんどん進めていかなければ間に合いません。これは、1回目は論点整理の必要ありませんけれども、2回目から論点整理が必要になりますので、きょうはその外部検討委員会のお話を聞くのかということと、財政シミュレーションから2、3、4については、22日に説明を聞くということとでいいのか。この点だけの意思統一をしていきたいというふうに私は考えております。

それに付随して、白老町の行革の中間答申が出るというから、それをすぐ資料としていただいて、それも参考にしながら動く。多分そのようになると思います。大体それで、22日に財政全般の状況だけは一応つかむと。その後、個別の行政課題についてどうするかというのは、町の方針とにらみ合わせながら進めるというふうになっていくのかなというふうに思っていま

すけれども、私はそういうふうを考えていますけれども、いかがでしょうか。

岡村事務局長、何かありますか。

○事務局長（岡村幸男君） 前段、担当課のほうとどういうスケジュールになっているかということはお話しさせていただいているのですが、重要課題項目の方向性の取りまとめは7月の末ぐらいになるということなのです。

それから、事務事業の見直しの取りまとめも同じく7月末、それから、旧プログラムの検証取りまとめも7月末と。それから、収支計画現状延長型の取りまとめを7月末という、全てこの答申を受けた後の7月末段階でまとめるということになっておりまして、本格的な議論というのはそこからなるのではないかというふうに考えます。

そうなれば、現状で今議員の皆さんがこの財政問題に関して議論をして進めていくということは、やはりこれまでの状況がどうであって、今後の収支見通しはどうであるという、それをしっかり押さえた上で、課題を後から出てきたものに対してきちっと議論、論点整理をしていくという必要があるのではないかというふうに考えております。

ですから、7月22日は先ほど言いました答申の進めというのは難しいですけれども、以下のシミュレーション、それから、改革の課題、スケジュール、これらについては事前の説明を受けて進めていく必要があるのかなというふうに考えます。

以上です。

○小委員長（大淵紀夫君） 今の点について。

吉田副小委員長。

○副小委員長（吉田和子君） 外部有識者検討委員会の答申を見たときに、最後の最後に議会と町民と地域ということでありまして、その考え方を直接説明する努力を惜しまないというふうに書かれていましたので、私は当然聞くべきときがあるというふうに思っていました。

ただ、議会でするので、何の状況も把握せずに、把握せずと言うとおかしいですけれども、町側の考えをある程度把握しないうちに聞いて、ただ聞くだけで終わるということにはならないのではないかと考えていましたので、やはりこういったシミュレーション的なものが、結論が出てからではなくて、それを受けて議会としてどうなのかということの考えをしっかりとってその説明を聞くことはしないと、危機感がないというか、また同じように言われてしまう。ただ聞いているだけでは言われてしまうような気がしますので、私はきちんとした物の考え方をそれぞれ議会として、個人としてきちっともって先生の話聞くということが1点。

それから、このスケジュールの中で、先ほど山田委員がおっしゃったように、時間的なスケジュールはかなり密になってくると思うのですが、一番大事なことは、町民との意見交換というかそれがどういったところでもっていく必要があるのか。すごく町民の方不安抱いていました、会う人会う人みんなそういう話出ます。今病院も署名運動もやっています。そういったことも含めると、いろんな面で町民とかかわることが必要になってくるのではないかと思いますので、それもどういったタイミングで入れていくか、ただ話を聞くだけではやっぱりだめだと思いますので、それも小委員会でやるの。また、全体的にやるのか。

それから、小委員会として、具体的なスケジュールはどのようになるのか。今局長を挟んで聞いていますけれども、担当課とちょっと、小委員会とでもいいから1回やりとりして、私たち自身も結果だけ聞いていますけれども、またその流れをきちんと聞いてどのように進んでいくのかということをもうちょっと向こうの考え方を聞きながら、意見交換しながら進めていければと思って聞いたのです。

○小委員長（大淵紀夫君） 22日は特別委員会が開かれることになっておりますので、まず財政シミュレーションの部分、行政課題、スケジュール。ここまでは22日に全員でまず聞くと。これを確認したいと思いますけれども、よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小委員長（大淵紀夫君） それから、1番の有識者検討委員会の説明を聞いたほうがいいのかどうか。それはどうですか。今吉田副委員長は聞いたほうがいいのかというご意見でしたけれども、ほかの委員の方はどうですか。

小西委員。

○委員（小西秀延君） 私も有識者の答申の部分は作成された方たち、できれば皆さんからご意見を聞いてみたいと思っています。

以上です。

○小委員長（大淵紀夫君） 小西委員。

○委員（小西秀延君） 無理であれば、代表の宮脇先生お一方でも構わないから、ぜひお聞きしたいです。

○小委員長（大淵紀夫君） 3人全部出てほしいという意味ですね。1人は総務省にもう帰られたそうですから、最大限で2人かもしれません。

この件につきましては、スケジュールが整い次第有識者検討委員会のメンバーの方とも近い時期にお話をしたいということで調整してもらうという形にしますか。

なるべく全議員さんが理解できるような形で進めたいと。スケジュール調整と論点整理はこの小委員会の責任ですけれども、なるべく中身については全体の中で明らかにしていくというふうにしたほうが私はいいのではないかと思っているのです。ここで何か事前にどンドンやってしまうとちょっとまずいなと私自身は思っているのです。

ですから、きょうは22日の中身と、外部有識者の話を聞くか聞かないかはここで決めても構わないと思いますので、それはそういう形で取り進めると。現課との話は1回目の特別委員会が終わった後に詰めを行う。私はそのほうがいいだろうと思っています。ということで、外部有識者のお話は少なくとも、直近で相手の皆さんが一番早く白老町とお話しできる日に議会とお話をさせていただくということで調整していただくということでよろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小委員長（大淵紀夫君） それでは、そこはそのように進めます。

22日の中身まで来ました。それで、各会派に必ずこれからこういう議論が、この小委員会の後行われると思うのです。そのときに、当然我々もお話をしますけれども、必要外の資料はだ

めです。この問題に関する資料です。これを各会派できちっと議論して資料要求してください。日にちは決めませんから、随時どんどん要求して、必要なものだと判断したものから出してもらいます。今回については、背景をきちっとつかまえるということが必要ですから、少々町側の時間が要しても悔いを残さないような議論をするために資料渡していただきますから、私のほうでそれは要請しますので、各会派でどういう資料が必要かということです。

例えばこういうことです。白老町の町立病院が行っている。これはこの後、うんと後です。財政の問題ではなくて、内科と外科と小児科だけです。その対比がどうなっているかというようなものがつくれるのであればつくってもらおう。そういう議論でないと、耳鼻科から皮膚科からみんな入った資料を見て我々が判断するというのはちょっと違っていると思いますので、そういうものを含めてきちっと各会派で議論して、資料を要求してください。今回これは徹底的にやりたいと思っています。

それから、吉田副小委員長から出ました、町民との意見のやりとりをどうするか。議会としてどうするかと。このあたりの議論は必要かなというふうに思っています。22日の特別委員会が開かれれば、あとは小委員会ではいろいろな意見が多分出てきますから、それを事前審査にならない範囲できちっと整理して次の特別委員会に下ろしていくというような形にしてはいかがかというふうに考えております。

その前に呼ぶということは、私はしないほうがいいと思っていますので。そのほうが、1回開いた後に、あらのスケジュールが出せるのだったら22日に出してもらったほうがいいです。みんなから意見聞いたほうがいいのです。ここでやるのではなくて。そういう形で進めたほうがいいと私は思っています。

この件について事務局何か意見ありますか。

岡村事務局長。

○事務局長（岡村幸男君） 22日に行う分としては、先ほどの2、3、4の部分ですね。これについても、22日に説明してもらおうということで資料を要求しておくという、そういう事務的な手続きでよろしいですか。

○小委員長（大淵紀夫君） できれば、出していただけるものは2、3日前に出していただくほうが。やっぱり事前に読んでおくのと全然違いますから。できないものは当日でもいいです。

委員の皆さん、ほかに何かありますか。22日、特別委員会が終わったら若干の時間小委員会をやりたいと思います。22日終わってから。そして、もう一度論点整理のための小委員会が次の特別委員会を開くまでに必要かということも含めて、この日から実質的に小委員会は積極的に動くというふうになるとと思いますので、そのように進めたいと思いますが、いかがですか。

小西特別委員長、いいですか。

○委員（小西秀延君） いいです。

○小委員長（大淵紀夫君） それでは、そのようなスケジュールで動いていくことにしたいと思います。よろしゅうございますか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小委員長(大淵紀夫君) ほかにこの小委員会に対する意見要望等々ございましたらどうぞ。
岡村事務局長、何かありますか。

○事務局長(岡村幸男君) 22日の特別委員会終了後に小委員会を開くということで、当日説明あったものに対する論点整理等をしていくということと、特別委員会の次の開催予定、それもある程度スケジュール立てをして検討いただきたいなというふうに思っています。

○小委員長(大淵紀夫君) 当然22日にあらのスケジュールは出る可能性があります。町から。それを見て小委員会の中で議会側のスケジュール立てをどうするかと。その中に、例えば今重要なのは、吉田副小委員長が言われた、町民とのかかわり合いを持つとしたらどこで持つかというのはかなり大切だし、大変だし、そこはよく議論をしてやりたいと。ただ、タイミングを逸したら町民からは批判を受けてもプラスな作用はないと思いますから。なるべくいい時期に、もしそういうものをお考えとしたら、考えたほうがいいと思います。

町の意見も聞きながらやらなければだめですから、そこはそのようにしたいと思います。なるべく小委員会は22日にやったら、その後もう1回くらい短時間でもやって、なるべく全体の認識にしながら動けるようにしたいと思いますので、きょうは大体このようなところでいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小委員長(大淵紀夫君) それでは、22日の特別委員会はそのような形で行うということで、22日から実質的に論点整理含めて入っていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひします。それまで各会派でいろいろ考えておいていただきたいと思います。

◎閉会の宣告

○小委員長(大淵紀夫君) 以上で小委員会を閉会いたします。

(午前10時41分)